

YS1-6

小児病棟におけるICTを用いたきょうだい支援

三浦 絵莉子¹、大久保 香織¹、岡崎 桂¹、賀数 勝太²、福富 理佳²、西垣 佳織²、
野口 楓³、来嶋 明香里³、高橋 恵理子³、小林 京子²、小澤 美和⁴

¹ 聖路加国際病院こども医療支援室 ² 聖路加国際大学大学院看護学研究科小児看護学

³ 聖路加国際病院看護部小児病棟 ⁴ 聖路加国際病院小児科

2020年の始まりから、新型コロナウイルス感染症対策により生活環境は大きく変化した。子ども社会の核となる保育園・学校は休園、休校となり、遊具を共有する遊びの機会さえ制限された。病院では面会制限が厳しくなり、遊びや学びを含む療養環境にも大きな影響が見られた。これにより、きょうだい児の日常はとくにストレスフルな状況になったといえる。学校再開後、感染症への脆弱さがある入院患児を心配するがゆえに、きょうだい児にクラスメイトよりも厳しく外出を制限していた家庭も少なくなく、加えて親の注目は闘病中の子どもの状態にくぎ付けになった。保育園・学校社会の居場所も失ったきょうだい児が人との関係からますます孤立していく懸念があった。

当院には、保育士、CLS、医師、看護師などが多職種できょうだい児の支援を行う「きょうだいレンジャー」というチームが存在し、“きょうだいを孤立させない”“主役にする”をミッションとしている。これまできょうだい児を病棟に招いてさまざまなイベントなどを開催してきた。しかし新型コロナウイルス感染症対策により、病棟ときょうだい児の直接的なつながりを持てなくなってしまった。

このような状況の中、病棟スタッフがきょうだい児と少しでも関わりが持てるよう、またきょうだい児が家族以外の社会とのつながりが持てるよう、当院では小児科病棟に入院するこどものきょうだいを対象として、ZOOM®を利用した定期開催のきょうだい支援プログラム「きょうだい ひみつかいぎ」や「ZOOMで会いましょう」などを行った。多職種、そして病院・大学スタッフとの協働で実現したイベントを報告する。